

◎創造的コンベンション都市をめざして

■久代雅之・渡辺政一

1 1—なぜ横浜は創造的コンベンション都市をめざすのか

今年、横浜のスポーツの当たり年といえよう。横浜高校や横浜ベイスターズ等の活躍には多くの市民が熱狂し、ホームタウンとしての横浜を再認識したことだろう。

特に横浜ベイスターズの優勝に関連して、横浜の都市としての特質について興味深い指摘があったので、いくつか引用したい。「東京にコンプレックスない唯一の都市横浜」【作家千石涼太郎氏日刊スポーツ十月九日】「東京に対抗できる文化と歴史を持つ横浜」【東京工業大学助教授上田紀行氏朝日新聞夕刊十月十二日】「横浜ベイスターズが強くなった理由について」横浜という都市の性格が大きい様な気がする。企業に寄りかかるチームから市民中心のチームに改めたのは、フロントがそれを感じたからだ。フランチャイズがある中で距離的に言つてアメリカに一番近い(?)街は、いま、日本の野球をアメリカ型に近づけようとしている。―中略―

かし、野球をアメリカ型に近づける市民達は、また、義理と人情に厚い人々だ。」【作家丸谷才一氏読売新聞夕刊十一月四日】

こうした都市の特徴は、横浜の都市としての成り立ちに負うところが大きい。横浜は開港により、日本全国から、諸外国からたくさんの人が集まり、それに伴い様々な知識や文化が集まってきた。この地で出会った人々により培養され、それらは新しい独自の日本文化となつて、日本や世界に広まっていた。現在もこの街には、約百三十万の人々が暮らしているが、「江戸っ子になるのは三代かかるが、横浜では住んだその日からハマッ子」という異質なものを受け入れる寛容の精神はこの歴史性が培ったものである。また、横浜は、世界五十二都市四十七団体を結ぶシティネットの会長都市として、アジア・太平洋地域の都市問題解決に向けて取り組んでいるが、これも互いを尊重し交流するネットワーク関係を大事にする横浜ならではの活動である。

コンベンションの定義については後に述べるが、「人と人とが直接に出会い、交流する

中で創造とネットワークが生まれる」というコンベンションの最大の特質が開港当時の横浜でその効力を発揮していたのである。あえて、牽強付会気味に言うならば、横浜は日本の「元祖コンベンション都市」である。

ところで、「二十一世紀はコンベンションの時代である。」と言われる。これは、コンベンション産業がこれからの有望な成長分野であるという意味だけでなく、課題解決手法としてコンベンションが注目されていることを意味する。

現在、国際的に相互依存関係の極めて密接なボーダレス社会が進展しているが、このような中で人類共通の課題を解決するためには、「人と人」「都市と都市」「国と国」が、コンベンションを通じて、互いを尊重しつつ話し合い、知恵を出し合つて行くことがますます重要となってくる。

都市としての成り立ちや歴史性、それにより育まれた開放的で進取の気性に富んだ市民性、さらに、最先端の都市施設と観光地としての魅力を併せ持つ街である横浜が世界に開

- 1—なぜ横浜は創造的コンベンション都市をめざすのか
- 2—コンベンション都市とは何か
- 3—創造的コンベンション都市とは何か
- 4—創造的コンベンション都市実現への課題
- 5—創造的コンベンション都市推進への取り組み

表-1 都市別国際会議開催件数

	91	92	93	94	95	96	97	構成比
東京	181	228	259	208	287	343	344	15.9%
大阪	98	164	196	206	219	171	197	9.1%
名古屋	146	105	141	175	182	180	196	9.1%
京都	209	180	150	180	154	169	195	9.0%
福岡	62	82	87	102	133	161	188	8.7%
神戸	164	177	186	170	134	161	170	7.9%
横浜	68	87	85	104	86	80	100	4.6%
全国	1,254	1,487	1,665	1,786	1,833	1,971	2,163	

【1997年コンベンション統計】JNTO

■参考資料 その1

・国際会議開催件数における横浜市の位置
1997年の国内の国際会議都市別開催件数では、横浜は100件で7位、国内開催総数2163件の4.6%を占めています。6位の神戸が170件、5位の福岡が188件と倍近い差があります。また、1992年以降は、94年と97年を除いて、開催件数は80件台にとどまっています。

かれた創造的コンベンション都市づくりを推進することは、単に横浜市民だけの為ではなく、国際社会に対する貢献の一つであると言える。

これこそが、ゆめはま二〇一〇プランで新開国都市宣言をした都市横浜が創造的コンベンション都市をめざす意義なのである。

2 コンベンション都市とは何か

① 一般的なコンベンション都市の定義

コンベンション都市の統一的な定義はないが、平成六年九月に施行された「国際会議等の誘致の促進及び開催の円滑化等による国際観光の振興に関する法律」(通称：コンベンション法)では、その対象催事を「会議、討論会、講習会、その他これらに類する集会(これらに付随して開催される展覧会を含む)」であつて、海外からの相当数の外国人の参加が見込まれるもの、並びにこれらに併せて行われる観光旅行、その他外国人のための観光及び交流を目的とする催し」と定義しており、具体的には、相当数の外国人が参加する会議、セミナー、シンポジウム等と、これに併せて行われるツアーなどの観光旅行やレセプション等の観光及び交流を目的とする催事を対象としている。

一般にコンベンション都市とよばれる場合、こうしたイメージが確固としたものとしてあり、各地のコンベンションビューローも、この枠組みで活動を展開している。

なお、この法律により、運輸大臣は国際会議施設や宿泊施設のハード面やコンベンション

ンビューロー等のソフト面での体制が整備された都市を国際会議観光都市として認定することができ、それまで、運輸省によりコンベンションシティの認定を受けてきた各都市は、以後、国際会議観光都市として再スタートをきり、現在四十五都市が認定されている。認定された都市(具体的には、各コンベンション・ビューロー)に対しては、国際観光振興会(JNTO)を通じて情報提供や支援が与えられることになっている。

② コンベンションの横浜市としての定義

コンベンションの定義は様々あるが、横浜市では、以下の催事形態を創造的コンベンション都市がカバーする領域として位置づけている。

コンベンションの定義を幅広くとらえている理由としては、横浜の様な大都市の場合、都市としての特色を出す方法としては一つの分野のコンベンションに特化するよりは、複合的・総合的にコンベンションを展開することが有効だからである。このためには、様々なコンベンション全体を統合的・包括的に調整する機能が必要となる。

● 例示

⑦ 会議(人が集まり議事を伴う集会はほぼ全て該当する。)

・ コンGRES 国連防災会議 国際エイズ会議

・ 政府間交渉

・ 行政会議 関係機関会議 調査委員会 所

長会議

・ 学術会議 学会(大会) 研究会

■ 参考資料 その2

表一 2 中大型国際会議都市別開催件数

	92	93	94	95	96	97	構成比
京都	15	22	26	20	16	34	15.4%
東京	21	32	17	33	24	33	15.0%
横浜	27	24	31	24	20	25	11.4%
名古屋	12	15	3	14	17	16	7.3%
千葉	13	12	9	7	13	13	5.9%
神戸	10	9	14	11	10	12	5.5%
大阪	5	7	7	19	11	9	4.1%
福岡	7	6	11	9	9	9	4.1%
全国	138	161	168	189	179	220	

【1997年コンベンション統計】JNTO

・ 中大型会議招致に強みを持つ横浜市

中大型国際会議(総参加者数300人、外国人参加者50人以上の国際会議)に限ってみると、97年は、横浜は25件で3位となっており、国内開催総数の220件の11.4%を占めています。1位の京都・34件、2位の東京・33件と近接しています。さらに、国際会議の外国人参加者数では、1位・京都・15,860人、2位・東京・10,032人、3位・横浜・6,391人、4位・福岡・5,741人の順となっています。横浜は中大型国際会議の招致に強みを持っており、海外参加者数についても全国でトップクラスです。一方、開催件数の年次推移を追うと、全国の開催総数は年々増加しているにもかかわらず、横浜の開催件数は減少傾向にあります。これは、地方都市の開催件数が増加していることが原因で、国内における都市間競争が、今後、より激しさを増していくことが予想されます。

表一 3 都市別国際会議開催件数 5年間の推移 ()内の数字は順位を示す

	93年	94年	95年	96年	97年
パリ	(1) 355	(1) 358	(1) 332	(1) 280	(1) 249
ロンドン	(2) 191	(2) 205	(3) 192	(3) 179	(2) 205
ブリュッセル	(3) 164	(4) 182	(4) 174	(4) 178	(3) 182
ウィーン	(4) 163	(3) 203	(2) 200	(2) 186	(4) 178
ジュネーブ	(5) 145	(5) 124	(5) 168	(5) 148	(5) 146
シンガポール	(7) 116	(6) 118	(6) 140	(7) 136	(6) 138
アムステルダム	(9) 103	(7) 112	(8) 110	(10) 115	(7) 112
コペンハーゲン	(10) 99	(9) 100	(12) 88	(6) 146	(8) 106
ワシントン	(12) 95	(12) 95	(9) 108	(9) 116	(9) 100
香港	(8) 108	(13) 91	(10) 102	(10) 115	(9) 100
東京	(14) 90	(26) 55	(28) 51	(24) 64	(25) 64
京都	(56) 31	(56) 30	22	21	(37) 44
大阪		15	20	20	9
横浜	28	26	(47) 33	15	16
千葉	15	13	7	7	8

資料：UAI資料を基にJNTOが集計

・ 海外諸都市との横浜市の比較

海外に目を転じると、国際会議開催件数の首位をパリが独走しています。しかし、ここ数年減少を続けており、他のヨーロッパ諸都市やシンガポール、ワシントン、香港はほぼ横這い状態です。アジアだけを取り上げると、シンガポールの開催件数が138件、香港が100件であるのに対し、東京が64件、京都44件、大阪9件、横浜16件となっており、日本の開催件数が他の諸都市に比べて低調であることがわかります。年次推移を見ても増加傾向を辿っているとはいえ、海外諸都市との競争は厳しさを増していると言えるでしょう。

- ・大会 組合大会 業界団体会議
- ・研修会 資格研修 企業内研修 NGO 研究会
- ・フォーラム ボランティア市民交流会
- ・シンポジウム 公開シンポジウム 町づくりシンポジウム

④ 展示会（商品・機器・芸術作品等を一定の会場に展示するものは全てが該当する）

- ・展示会 輸入車ショウ 防災展 アウトドアショー ファッションショー
- ・フリーマーケット リサイクル
- ・コンクール カラオケのど自慢 体操コンクール ピアノコンクール
- ・自社展示会 新商品展示会 内覧会
- ・トレードショー 見本市 切手交換会

⑤ イベント

- ・博覧会 万国博覧会 地方博覧会 農業祭り
- ・記念式典 開港記念日 表彰式
- ・スポーツ大会 ワールドカップサッカー
- ・オリンピック 国民体育大会
- ・文化祭 映画祭 美術展
- ・コンサート クラシックコンサート ジャズフェスティバル 合唱団発表会
- ・花火大会
- ・パレード

3 創造的コンベンション都市とは何か

① コンベンション都市推進は新たな段階へ
高度成長期においては、大規模開発や地域産業振興、観光産業振興が都市の主要テーマ

であった。しかし、現在のような安定成長期においては、さらに横浜のように主要な製造業に加え、高度な第3次産業とそれを支える活発な地域住民が集積しているような都市にあっては、「安全で安心でき」「コンベンションビジネスも活発」「回遊する魅力にあふれ」「創造的な環境がそろい」「横浜の物語が感じられる」などコンベンションビジネスと市民生活の共存共栄型の都市のあり方が求められている。こうした街は、横浜を訪れる人々にとって魅力的で快適であると同時に、市民にとつて暮らし易さ・そこに住む事への満足感がうまく融合している都市と言うことができる。我々が目指すコンベンション都市には、コンベンション産業の更なる発展とこれによる都市の活力の増大、また市民生活の充足感との融合があり、これこそがトータルな意味での横浜の活性化に繋がると考えている。

こうした視点から現状のコンベンション都市推進施策を見直すと、今後において目指すべき二つの方向性が見えてくる。一つにはコンベンションを純粹にビジネスの面から考え、コンベンション主催者・参加者の満足度を最大限追求し、誘致においての競争力を高めていく方向だ。大規模で波及力の高いコンベンションの誘致では厳しい都市間競争がある。他都市との比較において横浜の優位性がどこにあるのかを多角的に分析し、効果的にアピールする必要がある。もう一つは市民生活の向上のための課題解決手法として政策的にコンベンションを活用する方策を確立する方向だ。これまで、あまり意識されなかった点だが、コンベンションの開催により最先端の情報を

■国際会議観光都市 (45都市)



注1. 「伊勢志摩」地区は、伊勢市、鳥羽市、二見町、玉城町、小浜町、御園村、南勢町、南島町、度会町、浜島町、大王町、志摩町、阿児町及び磯部町を一体として国際会議観光都市に認定
注2. 那覇市、浦添市、宜野湾市及び沖縄市については、4市を一体として国際会議観光都市に認定

収集し、課題解決のための糸口を見いだしていくものである。

② 横浜のめざすコンベンション都市像（創造的コンベンション都市）

横浜は、ゆめはま二〇一〇プランで「創造的コンベンションシティの形成」を目標として掲げている。単なるコンベンション都市ではなく創造的とした事に横浜の独自性がある。この創造的という言葉には二つの意味があると考えている。

一つは、コンベンションの開催により横浜が情報の集積地・発信地になること。
もう一つは、コンベンションの開催により地域に新しい情報の交流、価値観が生まれることだ。
前者はコンベンションの機能から直接導き出されるが、後者は制度的な仕掛けがないと

■ゆめはま2010プランとコンベンション

2010—よこはまの明日を拓く
リーディングプラン 11

ふれあいのまち

- いつでも安心シニアプラン
- 活気あふれる地域育成プラン
- 生き生きはまっ子プラン
- 環境エコアッププラン

はつらつなまち

- 快・速・安・信ネットワークプラン
- 世界都市・横浜再生プラン

ときめきのまち

- アートシティ横浜プラン
- 水と緑のトライアングルプラン
- みなとまち快道プラン

2010—豊かな暮らしをつくる
プラン 32

住む・暮らす

- 安心な私たちの暮らし
- 高齢者
- 障害児・者
- 児童・青少年
- 健康づくりと地域医療
- 人権を尊重する社会
- 男女共同参画社会
- 地域社会と身近な行政
- 住宅と住環境
- 環境の保全と創造
- 産業集積とリサイクル
- 都市防災
- 消防力の強化

働く・学ぶ

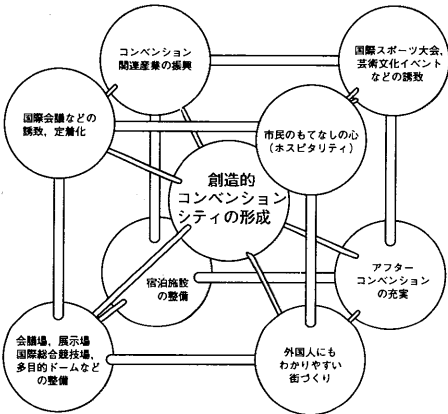
- いきいきとした私たちの暮らし
- 学校教育
- 科学技術と高等教育
- 生涯学習
- 経済の振興
- 都市農業
- 運動する総合港湾

やすらぐ・憩う

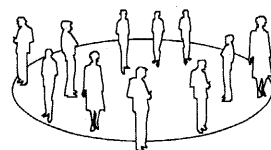
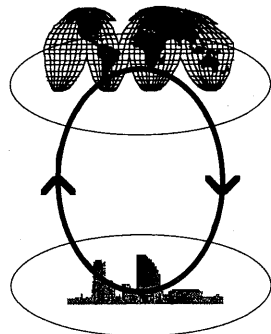
- 魅力ある私たちの暮らし
- 市民文化
- 歴史的遺産と都市デザイン
- 世界に開かれた国際都市
- スポーツ・レクリエーション
- 緑のオープンスペース
- 水辺・生物環境

ゆめはま2010プランの理念
市民生活のすべてにわたり
豊かさを実現する

■創造的コンベンションシティの形成（ゆめはま2010プラン）



従来のコンベンション都市
の情報の流れ
(表層的な循環関係)

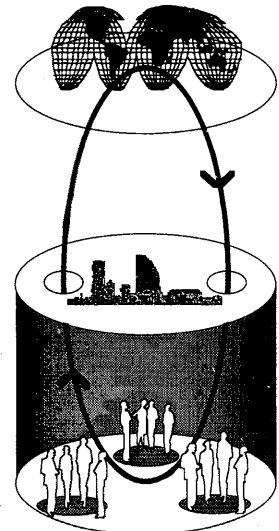


世界

横浜
(コンベンション施設)

市民生活

創造的コンベンション都市
の情報の流れ
(深層的な循環関係)



(コンベンションの増幅装置)
都市としての厚み

市民レベルのコンベンション

実現化しない。要は下図のように、コンベンション開催による情報の集積・発信という流れの循環をコンベンション施設周辺でのみ行われる表層的なものから、市民生活にまで届く深層的なものとする必要がある。しかし、現状ではコンベンションへの市民参加が充分ではないので、この深層的循環関係を構築するため、制度として確立された多様な参加プログラムを用意する必要がある。コンベンション施設が市民に身近な施設として認識され、心理的に地域のインフラとしてインプットされる事により、そこで行われるコンベンションがコンベンション施設の枠組みを越えて市民生活に浸透し幅広い効果をもたらす。同時にコンベンションの意義を理解し支援する市民の存在は都市としての厚みとなり、横浜で行われるコンベンションの情報発信力をより

増幅させる機能を持つ。創造的コンベンション都市とは、コンベンション施設等を舞台に、コンベンションという形式を使って市民が世界中の様々な人々と出会い交流し、新しい情報・価値観等を創造していく都市なのである。

4 創造的コンベンション都市実現への課題

平成十年度事業として、創造的コンベンション都市の実現に向け、「コンベンション都市推進基本方針」を策定中であり、学識経験者やコンベンション関係者等で構成されている基本方針策定検討委員会を本年九月に設立し、この中で議論を進めている。この委員会では、次のような課題があげられている。

① 誘致推進上の課題

創造的コンベンション都市を実現するためには、大規模で波及力のあるコンベンションの誘致を進める必要がある、そのためには次のような課題がある。

⑦行政、経済界、市民が一体となり、誘致活動を推進する全市的な組織が必要である。

⑧主催者にいかにアピールするかが大切であり、財政的な支援策やスポンサーを集めるノウハウを提供できる専門家が必要である。

⑨誘致すべきコンベンションを明確にするべきであり、それを明確にしたら、関連するコンベンションを多数開催し、実績を積むとともに、関係者との人的つながりをつけるようにする。というような戦略的な取り組みが必要である。

⑩幅広い分野のコンベンションを誘致するためには、日頃から様々な分野のコンベンション関係者とのネットワークづくりを心がける必要がある。

⑪横浜は、国関係のコンベンション開催が少ない。それは、関係省庁との情報交換や人的つながりの構築が弱いことが原因である。

⑫横浜に縁のある国際会議が東京で開催されている例が多いので、その主催者に横浜での開催を働きかけることが必要

② 政策課題解決手法として活用する場合の課題

また、横浜市としては、コンベンションを市民生活を向上させるための課題解決の手段として活用することをめざしているが、そのための課題としては次のようなものがある。

⑬市民の中でコンベンション都市横浜とは何かという議論をまきおこすことが必要。

⑭庁内の事業実施セクションが気軽にコンベンションを開催できる基盤づくりが必要

⑮地域で行われている市民レベルの問題解決活動を全市的にとりあげ、横につながる仕組みをつくるため、市民活動の実態調査が必要

⑯コンベンションの成果を市民生活や産業振興に生かす仕組みが必要

⑰コンベンションへの市民参加について多様な形態を工夫する

⑳ 新しい横浜のアイデンティティを確立する必要性

さらに、創造的コンベンション都市と言われるためには、従来の「開港」「西洋文化の取り入れ口」「異国情緒」といったアイデンティティに加えて、新たな都市の魅力を持ち、年間を通じて国内外から多数のビジターが訪れる、活気のある都市でなければならぬ。このような都市はまた、そこに住む市民にも誇りと活力を与える。このような都市になるためには次のような課題がある。

⑱バラバラに行われているイベントを統一のテーマでつなぎ、物語性を持たせる

⑲イベントの行われていない時期に新たなイベントを創造し、年間を通したにぎわいと情報発信性を高める。

⑳創造的コンベンション都市横浜のイメージアップ戦略を展開する

また、平成九年度に我々が行った過去の大規模コンベンションに携わった横浜市民関係者へのヒアリング調査の結果では、次のような

課題も提起されている。

㉑過去に開催した大規模コンベンションの蓄積が少ないので、過去のノウハウを集め、データベース化を図るとともに、コンベンションの誘致・準備・開催に関するマニュアルを作成する必要がある。

㉒コンベンション開催に関する政策的な位置づけを高め、適正な予算、体制の裏付けをすることが必要である。

㉓局際的な協力が必要なコンベンションを開催する場合は、全庁的な支援体制を確立し、基盤となる活動スペースの確保や開催時の応援体制の確立等がスムーズに行える環境を作る。

㉔責任者には過去に大型コンベンションを経験した人を配置する必要がある。

5 創造的コンベンション都市推進への取り組み

コンベンション都市を推進する上で、常に意識しなければならないのは、コンベンションの誘致には厳しい都市間競争があり、都市としてもっている力を全て発揮して競争に勝ち続けなければ生き残れないと言うことだ。折角策定した「コンベンション都市推進基本方針」を画餅に帰さないためには、可能性に挑戦し続け、与えられた機会には最大限の力を尽くしてコンベンション都市推進に取り組みなければならない。

二〇〇二年ワールドカップサッカー大会等は、まさしくコンベンション都市横浜の実力を問われる機会なのである。スポーツイベン

トの単なる開催地となるのか、ワールドカップサッカーを利用してコンベンション都市として更に飛躍できるかは、今後四年間の庁内の関連部署、地元企業、市民等の取り組み如何による。

また、ワールドカップサッカー以外でも、庁内の多くの部署において、施策と関連したコンベンションの開催や施策の課題を解決する手段としてコンベンションを活用することを検討してほしい。併せて情報を一元化し、全庁的視点から迅速に意思決定を行い、誘致活動や開催に向けた準備活動への支援等が円滑に行われる仕組みを作っていきたいと思っている。コンベンション都市推進の道程は平坦ではなく、さらに横浜は創造的コンベンション都市という独自の理想を掲げている。短期間で達成できる目標ではないが、コンベンションの都市戦略としての可能性を信じ、自立する都市・個性ある都市・情報発信力のある都市すなわち創造的コンベンション都市「横浜」を着実に実現化していきたいと考えている。

△久代雅之 企画局コンベンション都市推進担当コンベンション都市推進担当課長／渡辺政一 同コンベンション都市推進担当係長

■参考資料 その3

表-4 都市別見本市・展示会開催件数

	94	95	96	97	構成比
東京	94	151	156	137	29.7%
大阪	93	74	77	80	17.4%
名古屋	32	32	27	49	10.6%
千葉	64	58	50	41	8.9%
横浜	18	15	26	32	6.9%
福岡	18	22	23	30	6.5%
北九州		7	14	20	4.3%
全国	372	416	433	461	461

【1997年コンベンション統計】JNTO

・見本市・展示会の分野でも苦戦

横浜市での97年の見本市・展示会の開催件数は32件で全国5位、開催総数461件の6.9%を占めています。1位・東京は137件で29.7%を占めています。3位・名古屋の49件と横浜市の開催件数は、1.5倍近い開きがあり、4位の千葉を追い上げているとはいえ、厳しい状況といえるでしょう。

表-6 横浜みなとみらいホールにおける主な開催実績

公演日	公演名	入場者数	定員	入場率
6月5日	クルト・マズカ指揮 ニューヨークフィルハーモニック	2,008	2,020	99.4%
14日	佐藤しのぶソプラノリサイタル	1,693	1,764	96.0%
16日	アレシユ・バルタパヴァリオン名作集	1,856	1,894	98.0%
19日	ヴァレク指揮 プラハ放送交響楽団	1,922	2,020	95.1%
7月4日	ウィーンボプスオーケストラ・特別ゲスト	1,749	1,894	92.3%
18日	デューク・エリントン&マルサリス	1,554	1,816	85.6%
8月10日	ドレスデンフィルハーモニー児童合唱団	1,720	1,894	90.8%

表-8 横浜美術館（桜木町）における企画展入場者数ランキング

順位	展覧会名(年度)	入場者数	開催日数	一日当たり
1	ルーブル美術館200年展(5)	529,418	56	9,454
2	ゴッホ展(7)	480,068	48	10,001
3	ニューヨーク・ニューアート展(元)	467,540	106	4,411
4	メトロポリタン美術館名品展(元)	356,323	72	4,949
5	ボンベイの壁画展(9)	294,888	54	5,461
6	バルセロナ・アンギャルド美術展(2)	233,215	57	4,091
7	西洋の名画展(2)	188,769	54	3,496
8	ターナー展(9)	184,883	55	3,362
9	シカゴ美術館展(6)	100,343	43	2,334
10	ポール・デルボー展(2)	94,321	30	3,144

表-5 横浜国際総合競技場開催実績 (平成10年3月～8月16日*入場者数2万人以上)

月日	大会名	入場者数
3月1日(日)	ダイナスティカップ(日本対韓国、中国対香港)	59,380
4日(日)	ダイナスティカップ(中国対韓国、日本対香港)	50,743
15日(日)	港北区民まつり	150,000
21日(土)	Jリーグ開幕戦(横浜M対横浜F)	52,082
25日(木)	Jリーグ(横浜F対浦和R)	24,310
4月4日(土)	Jリーグ(横浜F対B平塚)	23,427
18日(土)	Jリーグ(横浜M対鹿島A)	34,199
5月5日(火)	Jリーグ(横浜F対S広島)	20,266
9日(土)	Jリーグ(横浜M対名古屋G)	20,274
24日(日)	キリンカップサッカー(日本対チェコ)	66,930
8月1日(土)	Jリーグ(横浜F対鹿島A)	28,054
16日(日)	Jリーグオールスターサッカー	60,566

・横浜国際総合競技場のスポーツコンベンションの開催実績

98年3月1日にオープンした横浜国際総合競技場は、サッカーの国際試合を中心に着々と実績を伸ばしています。しかし、国内最大7万人の観客収容能力を活かせるソフトがサッカーのみであること、既存大会については東京の国立競技場との競合関係があること等から、コンサートなどの開催や新規のイベントの開発などを検討していく必要があります。

表-7 横浜アリーナ（新横浜）における催事実績

	ショー・コンサート	式典・コンベンション	展示・物販	スポーツ	合計	来場者数
平成6年	32	23	4	11	70	約140万
	61.5%	21.1%	7.5%	9.9%		
平成7年	29	25	3	5	62	約129万
	54.6%	33.3%	6.3%	5.8%		
平成8年	34	28	8	13	83	約145万
	47.0%	30.7%	12.1%	10.2%		
平成9年	33	29	9	12	83	約164万
	43.9%	30.0%	13.5%	12.6%		

表-9 都市別主要イベントの来場者数(平成7年経済局調査より)

都市名	イベント名	来場者数(万人)	
横浜市	国際仮装行列	300	
	国際花火大会	280	
	開港祭	550	
	ヨコハマカーニバル	290	
	ワールドフェスタ	350	
	サマーナイトフェスティバル	820	
	野毛大道芸	110	
	札幌市	雪祭	2,044
	仙台市	七夕祭	2,353
	東京都	隅田川花火	959
名古屋市	名古屋祭	1,900	
京都市	祇園祭	1,130	
大阪市	天神祭	1,424	
神戸市	冬の物語	3,340	
福岡市	祇園山笠	3,000	
	博多どんたく	2,000	
北九州	ワッショイ百万夏祭	1,397	

・横浜のイベントは、多種多様ですが全国的な知名度はありません。観光面からは、市外からの宿泊を伴う観光客が訪れるような集客力のあるイベント展開の検討が必要です。